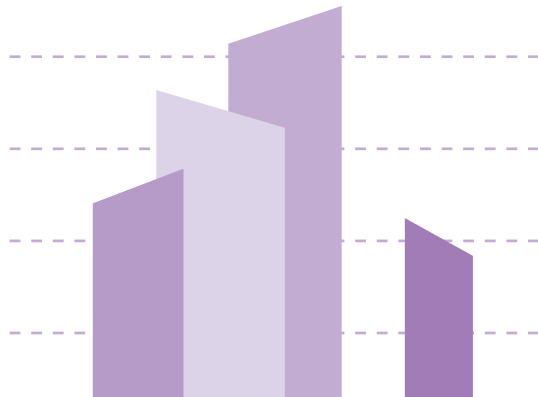




第2部 岩手のくらし

第1章 健康・余暇

～健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を
楽しむことができる岩手～



1 生涯にわたり心身ともに健やかに生活できる環境

健康に留意して生活している人の割合は約8割

健康に留意して生活している人の割合は約8割

令和6年県民生活基本調査によると、「健康に留意して生活している」人の割合は、80.8%となっています(図1)。

また、「健康のために努めている行動」で実行していることは、「睡眠を十分にとる」(87.5%)が最も多く、次いで「定期的に健康診断を受ける」(82.7%)、「ストレスをためないよう気分転換をする」(79.9%)の順になっています(図2)。

心疾患、脳血管疾患などで全国より高い死亡割合

令和6年(2024年)の本県の死因別死亡割合は、がん(23.0%)が最も高く、次いで心疾患(注)(14.5%)、老衰(13.5%)、脳血管疾患(9.2%)の順となっています。

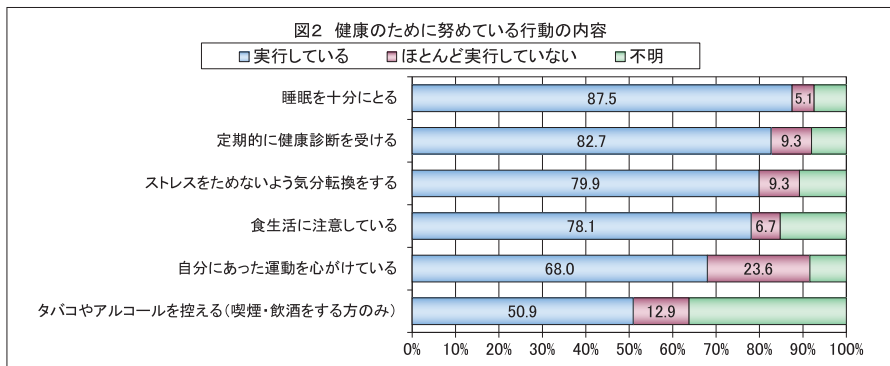
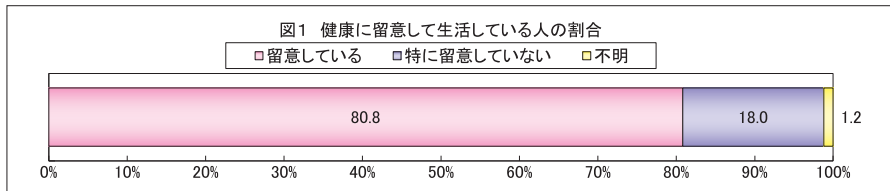
全国と比べると、本県は心疾患、老衰及び脳血管疾患による死亡割合が高くなっています(図3)。

また、がんによる死者数(人口10万人当たり)の推移をみると、本県は全国と同様に増加傾向にあります。一方、令和6年の心疾患と脳血管疾患の死者数は、前年に比べて共に減少しています(図4、5、6)。

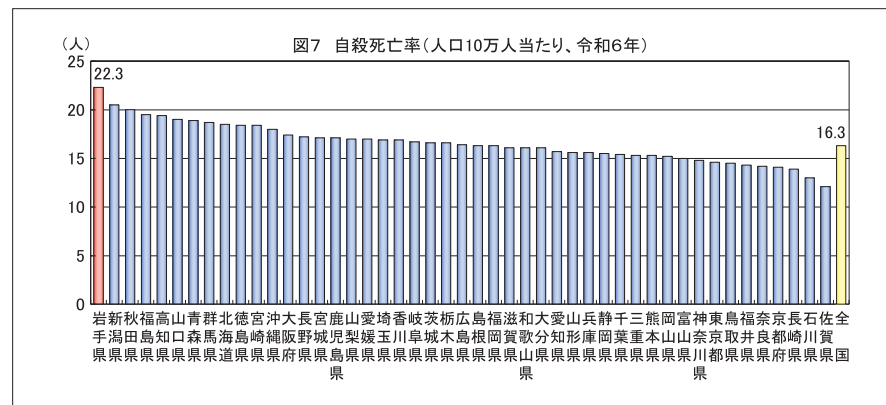
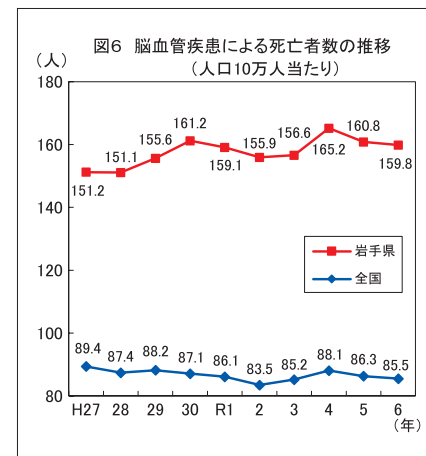
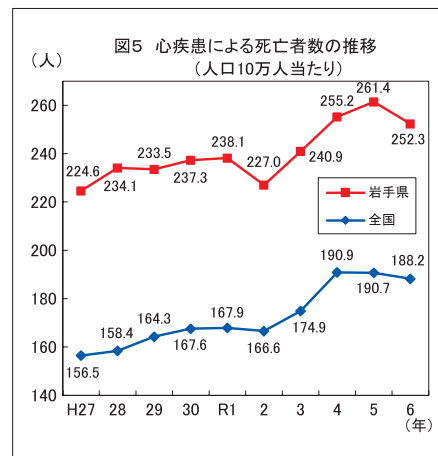
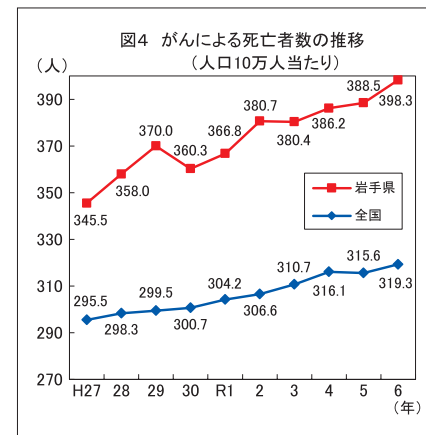
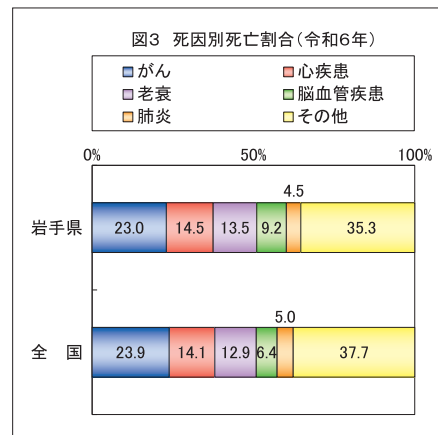
(注)心疾患は高血圧性心疾患を除く。

自殺死亡率は全国ワースト

令和6年(2024年)の本県の自殺死亡率は22.3人で、全国平均の16.3人を大きく上回り、全都道府県で最も高くなっています(図7)。



以上資料：県ふるさと振興部「令和6年県民生活基本調査」



以上資料：厚生労働省「人口動態統計」

3 介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境

認知症サポーター数は全国を上回る

■ 住み慣れた地域で安心して生活できる環境についての重要度は県全域で高い

令和7年県の施策に関する県民意識調査によると、「介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と回答した人の割合は、県計で82.0%となっています。広域振興圏別では、重要な割合が最も高いのが県央で83.6%、最も低いのが県南で80.8%となっています（図1）。

また、満足（「満足」＋「やや満足」）と回答した人の割合は県計で23.9%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の23.8%を0.1ポイント上回っています。広域振興圏別では、満足の割合が最も高いのが県南で25.3%、最も低いのが県北で21.7%となっています（図2）。

■ 高齢者等のための設備のある住宅の割合は全国を上回る

令和5年住宅・土地統計調査によると、本県における高齢者等のための設備のある住宅の割合は60.2%と全国平均の56.0%を上回っており、全国で9番目となっています（図3）。

また、本県の高齢者等のための設備状況別住宅の割合は、「道路から玄関まで車いすで通行可能」を除き、全国平均を上回っています（図4）。

■ 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の登録者数は毎年着実に増加

令和7年（2025年）の本県の社会福祉士（注1）の登録者数は3,123人で、前年から161人増加しています。

また、介護福祉士（注2）は23,500人で、前年から562人の増加、精神保健福祉士（注3）は1,118人で、前年から47人増加しています。平成28年（2016年）からの推移をみると、いずれの登録者数も毎年増加しています（図5）。

（注1）社会福祉士：身体的・精神的な障がいなどのため日常生活に支障がある人に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する資格者

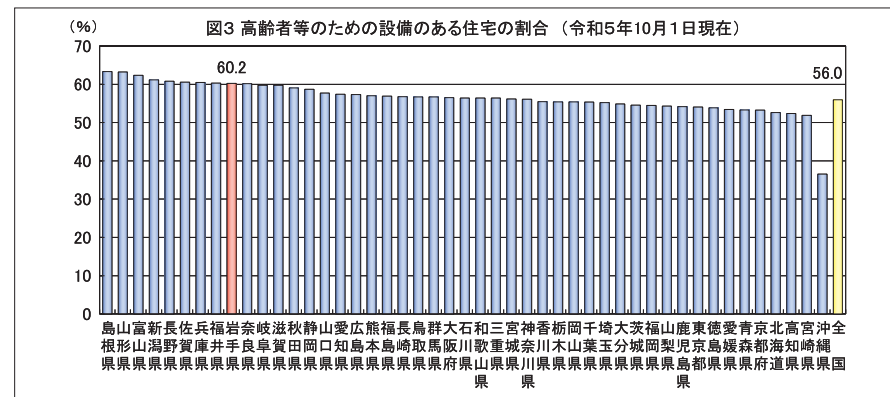
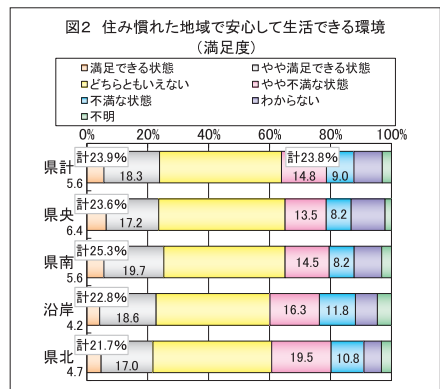
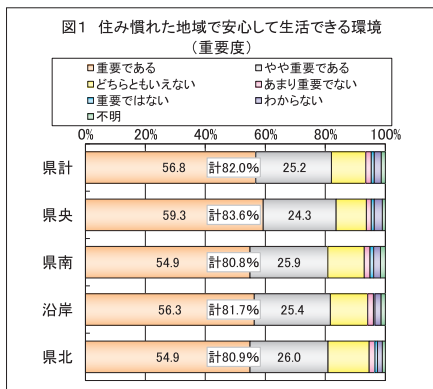
（注2）介護福祉士：身体的・精神的な障がいなどのため日常生活に支障がある人に介護を行い、介護に関する指導を行う資格者

（注3）精神保健福祉士：精神障がい者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行う資格者

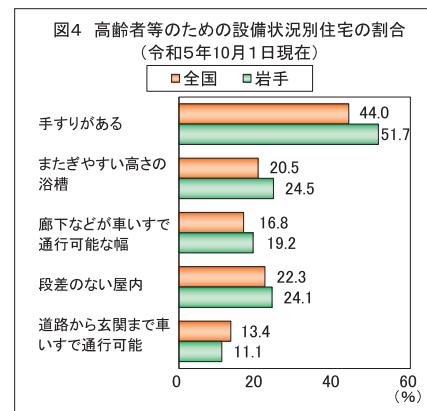
■ 認知症サポーター数は全国を上回る

令和7年（2025年）の本県の認知症サポーター（注）数は、人口千人当たり201.1人と全国平均の123.7人を上回っており、全国で5番目となっています（図6）。

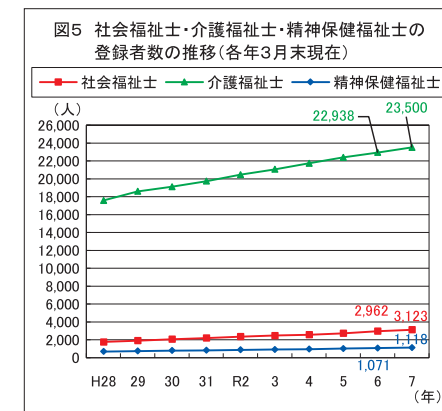
（注）認知症サポーター：特別な職業や資格ではなく「認知症サポーター養成講座」を受けて、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする支援者



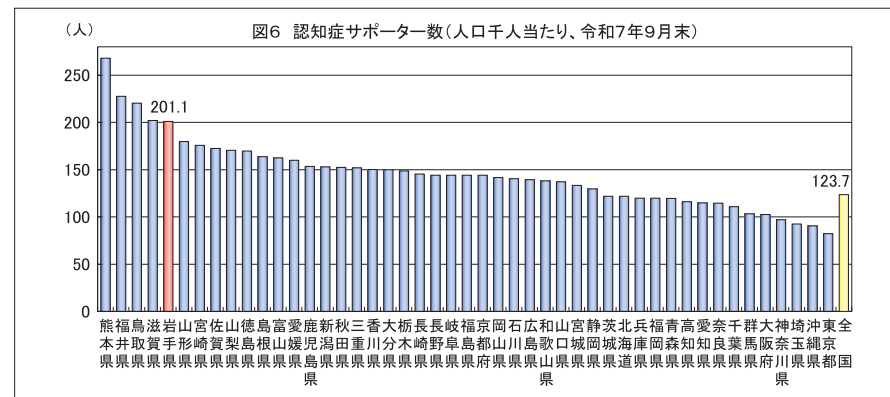
資料：総務省「令和5年住宅・土地統計調査」



資料：総務省「令和5年住宅・土地統計調査」



資料：（公財）社会福祉振興・試験センター「社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の都道府県別登録者数」



資料：全国キャラバン・メイト連絡協議会「認知症サポーターの養成状況」

以上資料：県ふるさと振興部「令和7年県の施策に関する県民意識調査」

5 生涯を通じて学び続けられる場

生涯学習に取り組んでいる人の割合は4割台後半

■ 生涯学習に取り組んでいる人の割合は4割台後半

令和6年県民生活基本調査によると、生涯学習に取り組んでいると回答した人の割合は、47.0%となっています。このうち、取り組んでいる〔週に数回程度〕+〔月に数回程度〕+〔年に数回程度〕と回答した人の取組内容は、「スポーツ・レクリエーションや健康の維持・増進」(65.3%)が最も多く、次いで「家庭生活に役立つ技能」(54.7%)、「趣味や教養」(53.0%)の順になっています。

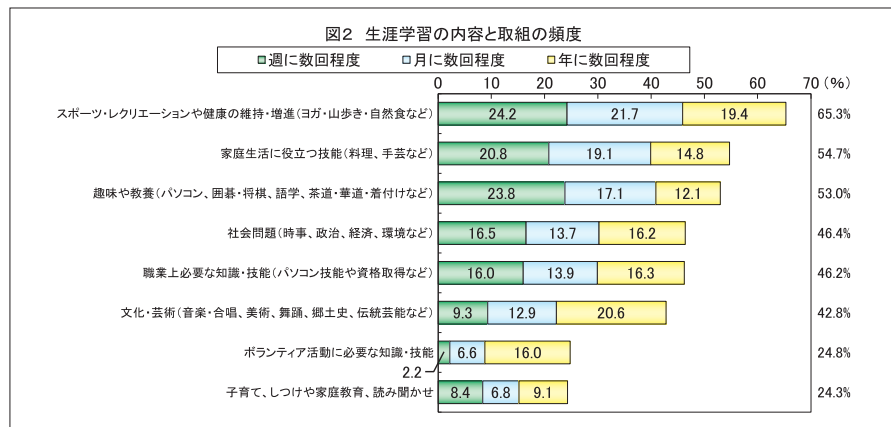
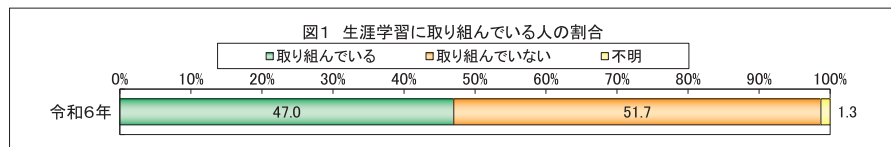
また、生涯学習で身に付けた知識・技能や経験を、どのようなことに生かしているかについては、「自分の人生をより豊かにすること」(66.1%)が最も多く、次いで「健康の維持・増進」(53.6%)、「家庭生活」(44.7%)の順になっています。

一方、生涯学習に取り組んでいないと回答した人の割合は、51.7%となっています。理由としては、「仕事や家事が忙しくて取り組む時間がないから」(46.7%)が最も多く、次いで「関心がないから」(30.7%)、「費用がかかるから」(22.2%)の順になっています(図1~4)。

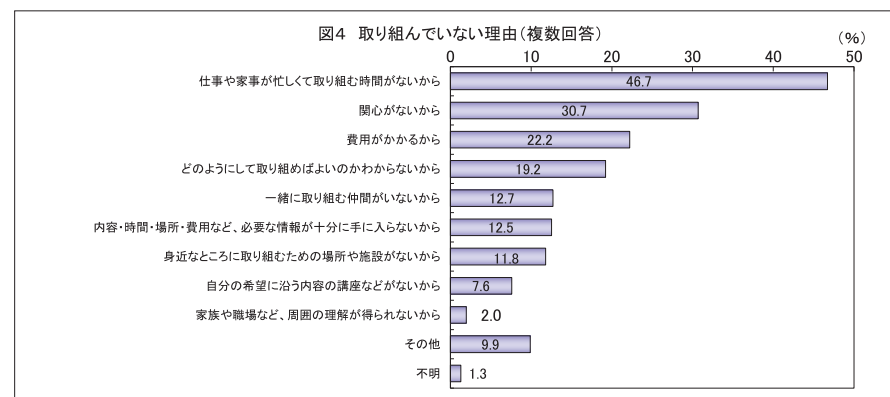
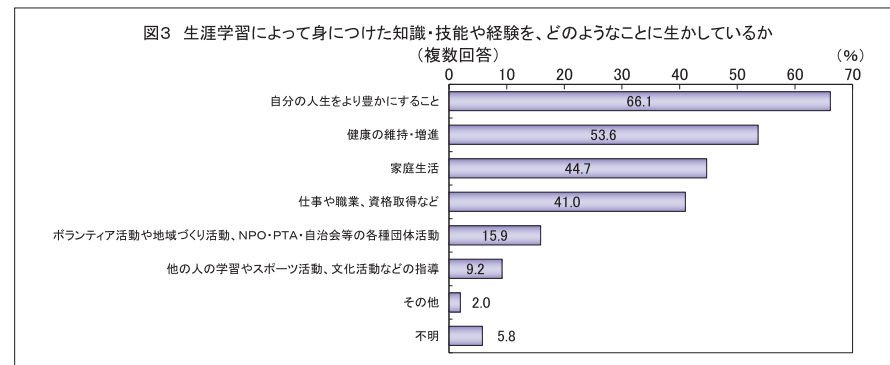
■ 学びたいときに学べる環境に対する満足度は県央で高い

令和7年県の施策に関する県民意識調査によると、「学びたいと思った時に必要な情報が手に入り、自分に適した内容や方法で学ぶことができる環境であること」について、重要(「重要」+「やや重要」)と回答した人の割合は、県計で64.7%となっています(図5)。

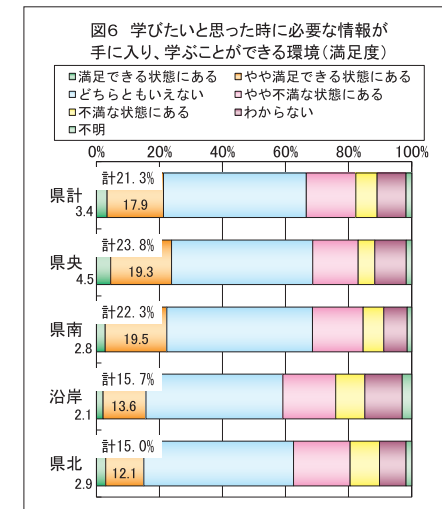
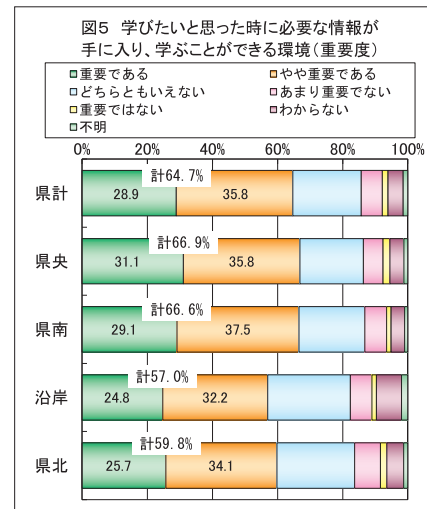
また、満足(「満足」+「やや満足」)と回答した人の割合は、県計で21.3%となっています。県央では、満足の割合(23.8%)が、他の広域振興圏と比べて高くなっています(図6)。



以上資料：県ふるさと振興部「令和6年県民生活基本調査」



以上資料：県ふるさと振興部「令和6年県民生活基本調査」



以上資料：県ふるさと振興部「令和7年県の施策に関する県民意識調査」